

令和6年度 甘木幼稚園 学校評価

本園では、教師自らが客観的な目で自園の教育・保育を振り返り、主体的に改善に取り組むために課題を明確にすることを目的として、学校評価を実施・公表しています。

1. 本園の教育理念

「健康な身体をつくり、
情操豊かな心をそだて、
創造的な思考力をつちかい、
人間としての基礎を築きます。」

上記を教育の基本として掲げ、その理念のもと、

「さまざまな活動を通して、基本的な礼節・秩序を身につけます」

という方針を示し、以下の3項目の実践を目標としている。

履き物をそろえる ことが出来る子

物事や心のけじめを
わきまえる第一歩

- ☆物を大切に扱う
- ☆下駄箱の内履き・外履き
- ☆トイレのスリッパ

あいさつ・返事が 出来る子

他者への「尊敬」「信
頼」「感謝」の第一歩

- ☆「おはようございま
す」
- ☆「ありがとうございます」丁寧なあいさつ
- ☆「ハイ！」元気な返事

順番を守ることが 出来る子

物事の成立ちや関係・係
わりをわきまえる第一歩

- ☆学習や遊びを通し、保
護者・先生・友だちと
の関係の中での順番・
順序の理解
- ☆我慢の大切さ
- ☆時には譲り合いも

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価実施することによって、教師自らが客観的に自園の教育・保育を振り返り、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

※教師の自己評価を平均したもの 評価の表示方法・・・A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが十分でない D:取組が不十分である

	評価項目	結果	取組み状況
1	保育の計画性と内容	B	園の教育理念・方針は理解され、保育内容にそれを生かす努力は十分認められる。しかし、保育計画の適切さについては、各教師が現状に甘んじていない状況があり、今後、主任・学年主任を中心に話し合いや学習の機会を増やし、問題点の共有と解決に当たりたい。
2	保育の在り方・子どもへの対応	B	幼児ひとりひとりの理解・指導においては、各教師の努力が認められ概ね良好であるが、学級運営の適切さの評価については、経験年数により差が大きかった。今後、主任・ベテランの指導や研修会等を通じ、教員のスキル向上に努めていきたい。
3	環境の構成	C	保育室・園庭・遊具等の安全で清潔な環境構成はなされている。しかし、幼児の興味関心を育む環境構成については、まだ不十分な点が認められるため、今後、主任・学年主任を中心に話し合い、より良い方向性を探っていきたい。
4	教員の相互協力・連携・役割	A	園長を中心に、主任が全体をまとめ、教職員各々が協力・連携してその役割を全うしようとする努力が認められる。適切に報告・連絡・相談が行われ、教職員が共有すべき情報はもちろん、園児各個人の情報等、必要な情報の共通理解が十分にされていると考える。
5	研修や教師としての資質・能力	B	自身の向上に資するための研修・研究は、必要不可欠なものである。しかしその取組は不十分であると言わざるを得ない。与えられる研修機会はもちろん、自ら能動的に研究し資質の向上を図って行かねばと考える。正職員においては、十分な働きかけにより各々必要な研修を受講している。その実績として処遇改善に対する補助金も多く交付されている。園としても益々研修等を増やして、若い教員から中堅の教員を含め、皆が自信を持って取り組める場を作っていきたい。
6	家庭支援・地域の関わり	A	子育て支援事業として、1号認定児預かり保育や2歳児クラスの開設やしている。 また月に2回の割合で未就園児教室を開催し、地域のこどもさんやお母さんを対象に、親子でふれあう場や育児相談の場を提供している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	自己点検・自己評価は、全般に厳しい視点での評価になったと感じる。原因として「評価項目が実際に即していたか」「評価結果の表示方法が適切だったか」「謙虚な評価を良しとする気持ちがあった」等の問題点があったが、何より「自己点検・自己評価」の主旨を十分理解せず取り組んだ結果かと反省している。早速、保育の振り返りの重要性や学校評価の主旨・理解について園内研修を行っているところである。 本園の3歳児以上クラスの担任のうち4人が経験5年未満の若い教員ではあるが、園内での協力体制・保護者への対応は良好であった。更に努力が必要なこととして、保育の在り方や幼児理解への研修、預かり保育、子育て支援等については積極的な取組が必要である。 本園は特別支援に関わる活動については、現在 保護者・園・療育施設の3者が連携して教育保育に当たる、との方針を持っている。これまで以上の知見を深める為、研修の必要性を実感している。 本園の教育理念・教育方針は教職員に理解されているが、今後、認定こども園教育・保育要領の理解に努め教育課程の編成にあたりたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
認定こども園教育保育要領の理解	教員間の共通理解をはかり教育課程の編成・見直しを行う。
保育の振り返りと自己点検・自己評価	評価項目・評価結果の表示方法を見直した上で自己点検・自己評価を継続して実施する。保育を振り返るとともに、自己を冷静に見つめ自己研鑽に努める。
子どもの育ちに対応し、保育の質の向上をはかる	子どもの姿から保育の質を評価し、園内の保育の質を向上させるための意見交換や園内研修の内容を充実させる。また教員が自信を持って取り組める環境作りに努める。
子育て支援事業の充実と地域社会とのかかわり	子育て支援の在り方について教員全員で話し合い、具体的に実現していく。幼小連携事業に積極的に参加して情報交換を行う。

6. 学校関係者の評価

特に指摘するべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正であると認められている。